

実践研究主題

当たり前のことが、当たり前ができる生徒の育成

「確かな学力が身につく学習指導の工夫」(4 / 4年次)

研究の概要

これまで3年間の「当たり前のことが当たり前ができる生徒の育成」の研究の成果として、学習に取り組む姿勢や聞く・話す・発表する等の学業面での学習規律の定着が図られてきた。今後も、生徒たちの基礎学力向上の基盤として、この学習規律の指導を継続して行うことにしている。

また、確かな学力を身につけさせるために、課題解決的な学習や習熟の程度に応じた学習、TT授業、個別指導等の工夫を行った授業を展開し基礎学力の向上に努めてきているので、今年度も、「確かな学力の育成」を研究テーマとし、各教科の学習指導の展開の中で、昨年度のように個別指導に限らず、多様な学習指導方法による基礎学力の向上を図る研究に取り組むことにした。研究の視点として次の4点をあげ、研究授業・授業研究を中心に、生徒一人一人の基礎学力の向上を目指すことにしている。

一斉の学習指導の場における基礎学力の向上を図る取組の工夫

グループ学習の場における基礎学力の向上を図る取組の工夫

個別指導を取り入れた基礎学力の向上を図る取組の工夫

ICT機器を効果的に活用した基礎学力の向上を図る取組の工夫

平成 2 3 年度校内研修計画及び内容

...一般研修

...テーマ研修

回	月日(曜)	研 修 内 容	主な提案者
	4月職員会議	平成23年度の職員研修の全体計画についての説明	研修係
1	4月11日(月)	テーマ研修1 「各教科での共通理解・共通実践事項(確かな学力を身につける学習指導のあり方)」	教科主任
2	5月16日(月)	生徒指導及び特別支援教育,健康面での共通理解・共通実践事項(実態把握と支援計画)	生徒指導係 特別支援教育係
3	6月6日(月)	小・中連携研修会に向けて	研修係
	6月14日(火)	小・中連携研修会(吉野東中学校)	研修係
4	7月4日(月)	テーマ研修2 研究授業・授業研究(1年)	研修係
5	7月21日~	テーマ研修3 本校生徒の実態と対策(基礎・基本定着度調査・標準学力検査分析と対策)	教科主任
6	8月1日(月)	生徒指導「不登校生徒への対応・事例研究」	生徒指導係
7	8月1日(月)	テーマ研修4 「各教科で1学期の実践の反省・課題」	教科主任
8	8月19日(金)	人権同和教育	人権同和教育係
9	8月19日(金)	性教育(健康教育)のあり方	特別活動・保健指導係
	8月24日(水)	第2回小・中連携部会(吉野東中学校)	研修係
10	8月30日(火)	特別支援教育の実際及び低学力生徒への対応の実際	特別支援教育係
11	9月12日(月)	保護者への対応のあり方(コミュニケーションと電話対応)	研修係
12	11月14日(月)	テーマ研修5 研究授業・授業研究(3年)	研修係
13	1月16日(月)	テーマ研修6 研究授業・授業研究(2年)	研修係
14	2月27日(月)	23年度の反省及び次年度の研究テーマの設定	研修係

理科学習指導案

平成 23 年 7 月 4 日 (月) 第 6 校時 理科室
1 年 3 組 男子 20 名 女子 18 名 計 38 名
指導者 教諭 竹迫 大樹

1 単元名 「身のまわりの現象」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校理科において最初の物理領域の学習である。したがって、物理領域の学習への意欲づけを図る上で重要な役割を担っている。そのため、さまざまな物理現象の中でも、日常生活と関連付けることが比較的簡単である「光」、「音」、「力」を取り扱う。

「光」「音」においては、カメラや望遠鏡、AV機器、光通信など、日常の生活の中の至るところで、これらに関する技術が活用されており、光の反射や屈折の性質、音の伝わり方の性質を応用するなど、本単元で学習内容が基本原理となっている。

また、「光」「音」の学習は、第 2 学年で学習する「感覚器官の役割とそのしくみ」、「力」の学習は第 3 学年で学習する「運動と力」などの物理領域を中心とした学習の基礎となるものである。

しかし、身近に見られる事物・現象であるものの、生徒の日常体験が不足していることにより、その知識が断片的であることを、他の領域の授業で実感している。

そこで、中学校で初めての物理領域の観察・実験であり、必要以上に厳密さや正確さを追求せず、事物・現象との関わりの充実を優先し、生徒の探究する意欲や関心を高める必要がある。また、結果の整理においては、図による表現を用いて光の様子を正確に捉えさせ、規則性を見い出させる必要がある。

(2) 生徒観

この学級の生徒は、自然現象の興味・関心が高く、理科好きな子が多い。また、授業において実験・観察に自主的に取り組んでいる。しかしその反面、観察・実験の基本的操作が身につけていない生徒や集中力が持続できないため、学習が不十分な生徒、自ら課題を解決しようとならない生徒も見受けられる。

そこで、班で役割分担をして観察・実験に主体的に取り組ませるようにしていると同時に、課題解決のための情報交換の場を設定する。班員と協力し合おうとする意識を高め、よさを認め合う学び合いを通して、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

また、生徒が予想や解決方法を意欲的に考え、表現できるようにするために、疑問や発想を生かした課題を設定しえ追究していく授業を展開する。

本単元で取り扱う「身近な物理現象」については、生徒は小学校で「光の進み方」などについて基本的な学習を行っている。これらの学習については知識面での定着度は高いものの、それらの現象について調べる方法などを十分に説明できない生徒も見受けられる。そこで、多くの観察・実験をすることによって、実験計画を立てさせていく必要がある。

(3) 指導観

本単元の指導においては、小学校の既習内容を踏まえるとともに、身近な事物・現象について生徒が自ら課題を見い出し、解決することを重視して自然を探究する態度や能力を育てたい。その中で日常生活と関連付けたり、科学的な概念や知識を活用しながら科学的な見方や考え方の定着を図りたい。

また、科学的な思考力の育成の観点から、生徒が目的意識をもって観察・実験を自主的に行うことができるとともに、結果を考察し、表現する話し合い活動を一層重視していきたい。

本時の導入における事象提示の場面では、生徒一人一人の好奇心や関心を喚起させるために、身近にある器具などを活用したい。

教師は、援助者としての役割を意識し、生徒が自分の疑問や矛盾から生じた課題を明確にできるように生活経験や既習したことを想起させ、解決のための見通しをつかませる手立てを考える。

授業の工夫として、教材提示装置を使い、生徒の興味・関心を高めさせる。また、授業での個別支援や意図的な机間巡視、指名を行い、生徒の主体的な追究意欲を引き出したい。

3 単元の学習目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	(1) 光の進み方に関心を持ち、光の反射のようすについて意識的に探究しようとする。 (2) 光の反射や屈折などの事象に関心を持ち、日常生活と関連付けようとする。 (3) 凸レンズのはたらきに関心を持ち、レンズのはたらきを日常生活で利用しているものについて調べようとする。
科学的な思考	(1) 実験結果から光の反射の規則性を見い出すことができる。 (2) 光の反射でおこる現象を考察することができる。 (3) 実験結果から光の屈折の規則性を見出し、光の屈折でおこる現象を考察することができる。 (4) 実験結果から、凸レンズと光源間の距離と像の位置や大きさ、向きについての規則性や実像と虚像が生じる条件を見い出すことができる。
観察・実験の技能・表現	(1) 光源装置の光を鏡に当て、入射角と反射角の関係を調べる実験をし、結果を作図することができる。 (2) 光が透明な物質に入るときと出てくるときに、どのような進み方をするかを作図しながら調べることができる。 (3) ろうそくなどを使って、凸レンズのつくる像をスクリーンに結ばせ、光源、凸レンズ、スクリーンの間の距離や像の大きさの関係を作図することができる。
知識・理解	(1) 光の直進、反射、屈折の規則性について理解し、知識を身に付けることができる。 (2) 焦点と焦点距離について説明ができ、実像ができるときの光源と凸レンズの距離、像の位置・大きさ・向きの関係を理解できる。 (3) 光軸に平行な光、凸レンズの中心を通る光、焦点を通る光の進み方や凸レンズでできる像には実像と虚像があることを理解し、知識を身に付けることができる。

4 学習計画（7時間取り扱い）

は本時

時	学 習 目 標	主な評価
1	探究活動の一連の流れを理解し、課題解決への意欲を高めるとともに、物質やエネルギーに関する身のまわりの事物・事象に対する興味・関心をもつ。	関心・意欲・態度 観察・実験の技能・表現
2	光に関連する身近な事象に興味・関心を持ち、身のまわりの物体が見えるのは、物体から出た光が目に入るからであることを説明できるようにする。また、物体が見えることと光の進み方には、関係があることを理解する。	関心・意欲・態度 知識・理解

3	光が鏡や水などの物体に当たり、反射する現象に興味・関心をもち、光の反射の実験を進んで行い、境界面で光が反射するときの規則性を見つけ出す。また、光の反射による物体の見え方を、その規則性と関連付けて、説明できるようにする。	関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 知識・理解
5	光が水やガラスなどの物体での境界面で屈折する現象に興味・関心をもち、光の屈折の実験を進んで行い、境界面で光が屈折するときの規則性や全反射が起こることを見いだす。また、光の屈折による物体の見え方を、それらの規則性と関連づけて、説明できる。	関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 知識・理解
6 7	凸レンズやそのはたらきに興味・関心をもち、凸レンズによって像ができることや、焦点、焦点距離について理解する。また、凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、その結果から、像の位置や向き、大きさと焦点との関係を見だし、実像や虚像について説明できるようにする。	関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 知識・理解

5 単元の評価基準

	関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解
単元の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 「光・音・力」に関係する事物、現象に関心をもち、それらのしくみやはたらきを調べる実験を進んで行うことができる。 「光・音・力」に関係する事物・現象について、日常生活と関連付けて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「光・音・力」に関係する事物・現象を調べる方法を考えることができる。 観察・実験結果から「光・音・力」に関係する事象の規則性を見い出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「光・音・力」に関係する事物・現象を調べる観察・実験の基本操作を行い、わかりやすく、正確な記録をとることができる。 「光・音・力」に関係する事物・現象を調べる観察・実験についての結果を班で話し合い、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験などを通して、観察・実験結果から「光・音・力」に関係する事物・現象の規則性を理解し、知識を身に付けることができる。

6 本時の学習活動

(1) 本時の主題

光は、透明な物質に当たると、どのように進むか

(2) 本時の学習目標

光が、水などの透明な物体での境界面で屈折する現象に関心をもち、意欲的に実験に取り組むことができる。

光の屈折についての実験を行い、屈折するときの規則性を見い出すことができる。

(3) 学習展開案

過程	学習内容・学習活動	観点別評価	指導上の留意点及び確認事項
導入・課題の把握 (10)分	1. 水の入っていないプラスチック容器に10円玉を入れて、少しずつ10円玉見えてくる現象を見て、なぜそのようなことが起こるのかを話し合う。 2. 本時の学習課題を確認する。 光は、透明な物質に当たるとどのように進むか。	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象について関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。興味・関心・態度 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の見通しを持たせるために、容器に水を入れることによって浮かんで見える現象を見せ、学習課題を明確にする。 実験方法を教材提示装置を使い、主体的に実験ができるように手順の確認を行う。
展開・課題の追究 (30)分	3. 課題解決作業 課題解決に向けて、実験作業を行う。 (1) 実験の準備を行い、実験方法を確認する。 (2) 実験の計画を立てる。 ア 半円形レンズに対して、空気中から光を当て、光が屈折するようすをワークシート上に記録する。 イ 半円形レンズの方向から光を当て、空気中に光が屈折するようすをワークシート上に記録する。 4. 実験結果をもとに、光が透明な物質に当たるときの進み方について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに話し合い、光が透明な物質に当たるときの進み方について考察をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験手順にしたがって、正しい操作を行っているか。実験の技能 光が透明な物質に当たるときの実験に進んで取り組んでいるか。興味・関心・態度 光が透明な物質に当たるときの光の進み方を記録することができているか。技能・表現 実験結果を班で協力して話し合い、まとめることができているか。表現 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮するように意識させる。(光源装置を人の目に当たらないなど) 実験が主体的に行えるよう支援していく。 記録の遅れている班については、支援する。 光が透明な物質に入射するようすを観察する視点として当てる角度を変えても、半円形レンズの中央部分に光を当てるように助言する。 結果のまとめ方が上手にできていない班に、境界面から近づいているか、遠ざかっているかなどの支援を行う。
まとめ (10)分	5. まとめ (1) 班で話し合った考察を発表する。 (2) 後片付けをする。 (3) 自己評価用紙に記入する。 6. 次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> 実験結果を参考に、光の屈折と全反射について 	<ul style="list-style-type: none"> 協力して後片付けができているか。関心・意欲・態度 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価表を配り、自己評価をさせる。 後片付けを班で協力して行えるように支援する。 次時への学習意欲が高まるように助言する。

(4) 評価

ア 光が水などの透明な物体での境界面で屈折する現象に関心を持ち、意欲的に実験に取り組むことができたか。

イ 光の屈折についての実験を行い、屈折するときの規則性を見いだすことができたか。

7 板書計画

水の入っていないプラスチック容器に 10 円を入れて、ぎりぎり見えない位置から水を入れていくとどのような現象が起こるか。

- ・
- ・
- ・

なぜ、そのような現象が起こったのだろうか。

- ・
- ・
- ・
- ・

学習課題

光は、透明な物質に当たるとどのように進むか。

考 察

空気中 半円形レンズ 半円形レンズ 空気中

実験方法

教材提示装置で説明

	空気中	半円形レンズ	半円形レンズ	空気中
1 班				
2 班				
3 班				
4 班				
5 班				
6 班				
7 班				
8 班				
9 班				
10 班				

理科自己評価カード

年 組 番 名前

1 できなかった 2 まずまずできた 3 よくできた

各項目の番号に をそれぞれつけること。

1 時間前に、学習用具を机の上にそろえた。

1	2	3
_____	_____	_____

2 チャイム前に着席ができた。

1	2	3
_____	_____	_____

3 始まりと終わりのあいさつがきちんとできた。

1	2	3
_____	_____	_____

4 正しい姿勢で授業を受けた。

1	2	3
_____	_____	_____

5 積極的に発表できた。

1	2	3
_____	_____	_____

6 観察・実験の準備、片づけを協力してできた。

1	2	3
_____	_____	_____

7 班での役割を一生懸命に取り組み、話し合うことができた。

1	2	3
_____	_____	_____

平成23年度吉野東中学校校内研修 授業研究シート

本年度研究テーマ 当たり前のこと当たり前でできる生徒の育成 「確かな学力が身につく学習指導の工夫」

・研究授業・授業研究

観点	学習目標・達成・評価？	教師の活動・発問？	生徒の活動・反応？	基礎学力向上の工夫？	学習規律？
導入					
展開	学習目標が明確だったか 学習目標が達成できたか 学習目標達成のための評価は適切だったか	教師の活動（支援）は適切だったか 発問や指示は分かりやすかったか	生徒は意欲的に活動していたか グループで活動が効果的に行われたか 発問や指示のねらいに即した活動だったか	確かな学力（基礎・基本の定着）を身につけるためにどんな工夫がなされていたか 一斉学習の中で グループ学習の中で 個別指導を通して ICT機器を効果的に活用して	聞く態度はしっかりしていたか 発表する態度はしっかりしていたか ノートはしっかりとっていたか 正しい姿勢で学習していたか
終末					

国語科学習指導案

平成 23 年 11 月 14 (月) 6 校時
1 年 2 組男子 21 名女子 18 名 計 39 名
指導者 教 諭 森 美 加

- 1 単元名 6 自分を見つめる
◇ 空中ブランコ乗りのキキ

2 単元設定の理由

この『空中ブランコ乗りのキキ』は、比喩が効果的に使われている平易な文章で生徒も読みやすい教材であるが、内容は職業観や人生観などを考えさせる深い内容である。また、対照的な登場人物の会話が中心に構成されており、表情・しぐさ・行動などの描写が克明で「文章や発言を読み解きながら考え」させやすい。また、この教材をきっかけに、自分についても考えさせる機会とした。

3 クラスの実態

このクラスは男子 21 名、女子 18 名で、素直で明るいクラスである。静かに人の話を聞くことができ、授業態度も落ち着いている。平均点も高い。だが、1 年生全体に言えることだが、読解力が弱い。特に、下のテストの結果のように、登場人物の心情に触れたり、場面の状況を捉えたりすることを苦手としている生徒が多い。また、文脈にそって読むことができず、そのため誤った答えを導き出す傾向もある。この教材を使い、文章に沿って考える読み方を身につけさせるとともに、国語への興味を引き出したい。

「aやだよ、こんなに長くちゃおかしいよ。」急いで脱ごうとするとママは裕一の腕をつかんで、ひどく優しい声で言った。「せっかくおばあちゃんが編んでくださったんだからね。ほら、こうすればいいでしょ。」両手で袖口を巻き上げた。三段折りにされた袖は手首のところまで太い輪となった。「これで我慢なさい。いまに編み物のできる人に頼んで、直してもらってあげるから。」(A) ママは編み物が苦手らしい。どうりで、いままで手編みのセーターなど一度も着せてもらったことがない。「①いつものようなセーター がいいよ。」「今年は、おばあちゃんが編んでくださるっていうんで、買わなかったの。」毎年秋の終わりになると、ママはデパートでセーターを買ってくる。そっこのほうは、胴回りも丈もびったりで、袖も決して長すぎるようなことはない。そのかわり、ひと冬だけで小さくなってしまふ。翌年には着られなくなって、ママは仕方なく押し入れにしまい込む。幼稚園のころのものから、ずっとため込んである。「②ね、慣れれば気にならないから、それ着て遊びに行ったらっしょい。」とうとう

③ママの仰せに従う ことになって、裕一は太い袖口を気にしながら出ていった。案の定、遊び仲間が目ざとく見つけて、「④腕輪 してんのか。」と面白そうに話しかけてきた。別の仲間は感心したように言った。「それって長くのぼすと、手袋にもなるんだろ。便利なんだよな。」裕一は (B) 。

その夜ママに内緒で、福島へ電話をした。「あら、裕一くん、セーターのお礼？」電話に出たのは、いとこの達子だった。中学三年生で、一人っ子の裕一にとっては姉のような存在なのだ。「おばあちゃん。もう寝たわよ。明日の朝、言っついてあげるから。」「あのう、セーターの袖長すぎるんだけど直してくれるかって聞いてください。」「袖が (C) 。」と達子は意外なことを言った。「あんた、すぐ大きくなるんでしょう。」「あ、・・・でも。」「その袖には、早く大きくなるようになって、おばあちゃんの願いがこもってるのよ。」「それは、・・・分かるけど。」「おばあちゃんは、もう目が弱っているのよ。それなのに、夜中まで一生懸命に編んでくれたんじゃないの。」「あ、・・・はい。」「あたしなんかうらやましいぐらいだわ。あんたのために、おばあちゃんは好きなテレビも見ないで編んでたんだから。」 ⑤達子の語調がきびしくなってきた ので、裕一は大あわてで受話器をおいた。はずみで巻き上げた袖口がほどけて、てのひらが半分隠れてしまった。左手で巻き直していると、編み物をしているおばあちゃんのように目が目に浮かんだ。「b ぼく、やっぱりこのままでいいや。」つぶやくと、ふいにまぶたの裏が熱くなった。

(内海隆一郎『だれもが子どもだったころ』より)

	<p>学習後の感想を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を黙読させる。 理解できない部分の確認をする。 学習後の感想を書かせる。 	6	6	<ul style="list-style-type: none"> 「初発の感想」との違いをとらえさせる。
体験文を書こう	<p>体験とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を音読みする。 構成を考える。 	1	7	<ul style="list-style-type: none"> 印象に残った所などに線を引かせる。 はじめ・なか・おわり（序論・本論・結論）の構成を確認する。 特徴的な表現に気をつけさせる。
	<p>体験文を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中で気づいたことなどから主題文を考える。 ブレインストーミングをさせる。 	2	8	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ具体的な発想をさせる。 自由な発想をうながす。
	<p>体験文を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のブレインストーミングから題材や書く材料を選ぶ。 はじめ・なか・おわりの構成を考えて文章を作る。 	3	9	<ul style="list-style-type: none"> 構成を考えた文章を書かせる。
	<p>体験文を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートに書いた文章を推敲し、原稿用紙に清書する。 	4	10	<ul style="list-style-type: none"> 常体・敬体、話し言葉・書き言葉など文体に気をつけさせる。 誤字・脱字にも気をつけさせる。
	<p>ひとが書いた体験文を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> 批評カードを使って互いに評価する。 	5	11	<ul style="list-style-type: none"> 冷静に客観的に批評することを指導する。 自分の表現活動に参考になるように注意する。

4 単元の評価の観点

- 登場人物の心情や行動の変化を読み取ることができたか。
- 登場人物のこぼれや動作をもとに心情を考えることができたか。
- 課題の設定および追究の仕方について理解することができたか。
- 学習材「添乗員さんと出会って」の分析批評ができたか。
- 取材・ブレインストーミングをとおして主題文を書くことができたか。
- 構成・表現などの工夫をして、体験文を書くことができたか。
- 完成した体験文について発表し、相互に批評し合うことができたか。

5 本時の指導

・ 指導目標

登場人物の性格をとらえよう。

キキは、男性か女性か考えよう。

(発言や文章を読み解きながら考えよう。)

・ 本時の計画

過程	学 習 活 動	時間	指導・援助の留意点
導入	1 漢字のテストをする。 [言語]	5分	1 基礎学力の定着をはかる。
展開	2 前時までの授業内容の確認をする。 初発の感想を発表させる [書く・聞く・話す] 3 学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の性格をとらえよう。 ・ キキは、男性か女性か考えよう。 <p>(発言や文章を読み解きながら考えよう。)</p> </div> 4 登場人物の性格を、発言や文章を根拠に考えさせる。 [読む・書く] 5 キキは、男性か女性か。 [読む・書く]	40分	2 何人か、指名して読ませる。 3 学習目標を発表させ、本時の学習内容の明確化を図る。 4 性格を考えさせる。必ず、そう思った根拠まで考えさせる。 5 キキの性別を考える。必ずそう思った根拠まで考えさせる。
まとめ	6 本時のまとめをする。 7 次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キキの性格を考える。 ・ 表現技法を考える。 	5分	6 登場人物の性格と、文章を読み解いて考えることの確認をする。 7 宅習課題 キキの性格を考えておく。

5 本時の評価

登場人物の性格をとらえることができたか。

キキは、男性か女性か考えることができたか。

(発言や文章を読み解きながら考えよう。)

・ 板書計画と、発問に対する予想される答え

空中ブランコ乗りのキキ
学習目標

- ・ 登場人物の性格をとらえよう。
- ・ キキは、男性か女性か考えよう。
(発言や文章を読み解きながら考えよう。)

登場人物

- ・ 団長・・ 楽天的で、陽気で、あまり深く考えない性格である。

キキをほめたり、励ましたりしているのだが、それがキキの悩みや孤独感をかえって大きくしていることに気づいていない。

キキのことを大切に考えている。

根拠・・ 団長さんは、いつも言っておりました。「おまえさんは、世界一のブランコ乗りさ。だってこのサーカスのブランコ乗りも、2回宙返りしかできないんだからね。」「心配しなくてもいい。だれにも3回宙返りなんかできやしないさ。それに、もし、だれかがやり始めたら、おまえさんは四回宙返りしてみせればいいじゃないか。」「練習でも、まだ一度も成功していないんだろ？」「陽気な団長さんまでが、心配そうにキキを止めようとしています。」

- ・ ロロ・・ 友達思い。自分の立場をよく考えている。

キキの身を心配してアドバイスをするので、キキを完全に説得することはできない。

根拠・・ 「およしよ。」「四回宙返りなんて無理さ。人間にできることじゃないよ。」「いいじゃないか。人気があって落ちたって死にやしない。ブランコから落ちたら死ぬんだよ。いっそ、ピエロにおなり。ピエロなら、どこからも落ちやしない。」「おい、およしよ。死んでしまふよ。」

- ・ おばあさん・・ 冷静。世間一般の人がもつ興味や関心、欲望に左右されない。

キキに人々の心理・行動の真理を教える。キキを追いつめて結果的に四回宙返り実行を決意させ、死に向かわせる役割があるとともに、「澄んだ青い水」を与えて四回宙返りを成功させ、キキの望みをかなえるという役割も果たす。

みんなが知らない情報や薬をもっている。

根拠・・ 波止場の片隅に、やせたおばあさんが一人坐って、シヤボン玉を吹いておられます。「その評判を書いた新聞が、今、定期船でこの町に向かって走っている。明日の朝にはこの町について、みんなに配られる。おまえさんの三回宙返りの人気も、今夜限りさ・・。」「明日の晩の、拍手は、今夜の拍手ほど大きくはないだろうね。」「お客さんは、それじゃ練習さえすれば、だれにでもできるんじゃないかな、って考え始めるよ。」「おまえさんは、明日の晩四回宙返りをやるつもりだね。」「おまえさんは、お客さんから大きな拍手をもらいたいという、ただそれだけのために死ぬのかね。」「いいよ。それほどまで考えてるんだったら、おまえさんに四回宙返りをやらせてあげよう。おいで・・。」「これ、やる前にお飲み。でも、いいかね。一度しかできないよ。一度やって世界じゅうのどんなブランコ乗りも受けたことのない盛大な拍手をもらって・・。」それで終わりさ。それでもいいなら、おやり。」

- ・ キキ・・
- ・ キキは女性か、男性か。
- ・ 女性・・
- 「わたし」という言葉遣いや話し方から。
- ・ 男性・・
- 「わたし」という言葉は、大人の男が使うから。
- 空中ブランコは体力がいるから。
- キキのお父さんは、3回宙返りに失敗してなくなったことを考えたら、体力がある息子が成功させたと考えた方がいいから。

授業研究の進め方を次のように変更し，付箋紙を活用した授業研究を行うことにした。

1 進め方

開会のことば

授業の意図や工夫についての説明(授業者) 3分

各グループでの授業分析，課題解決 25分

(グループでの付箋紙を使用した授業研究)

グループは学年部単位で構成し，4年部は1～3年部のどれかに入る。

ワイワイ言いながらしましょう

司会と発表者を決めて薦める。

ア 授業参観時の，授業研究シート内容を付箋紙に記入する。

イ 記入した付箋紙を授業研究シートに貼付する。

ウ 付箋紙の内容を成果と課題に分類する。

エ 課題についての改善策をグループで出し合う。

オ 全体で話題にし協議したい内容を出し合う。

各グループの発表 6分(2分×3)

各グループの成果と課題及び改善策，協議事項をまとめて発表する。13分

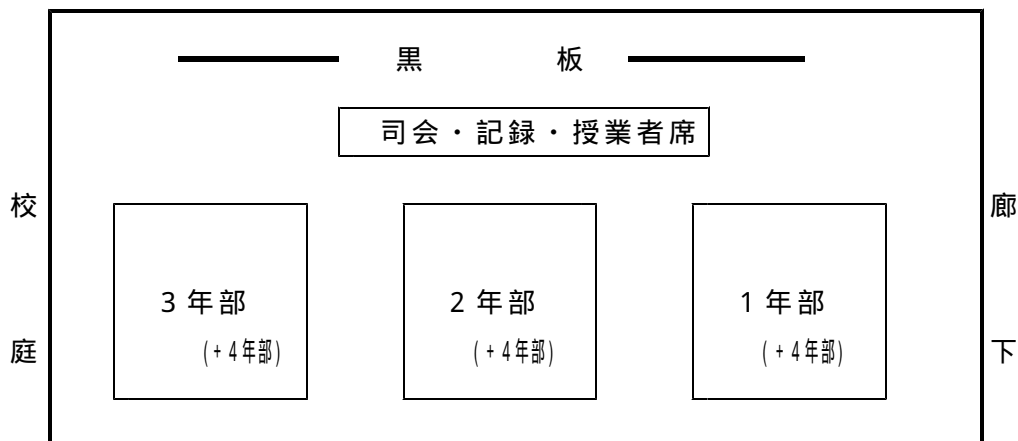
授業者から(授業研究後の感想) 3分

閉会のことば

2 準備するもの(研修係の方で)

- ・ 授業研究シート(ラミネートA3・3枚) ・ 付箋紙

3 授業研究会場図



◎本年度研究テーマ

当たり前前の方が当たり前前ができる生徒の育成

「確かな学力が身につく学習指導の工夫」

・研究授業・授業研究

生徒の視点（学習者）から授業をとらえてみましょう！

観点	学習目標と評価	教師の・指示と生徒の動き	基礎・基本定着の工夫	その他(学習規律等)
視点等	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標が明確で分かりやすかったか？ 学習目標が達成できた充実感があったか？ 学習目標達成のための評価はあったか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の発問や指示は具体的で分かりやすかったか？ 生徒は意欲的に活動できたか グループ活動が効果的に行われるような配慮があったか 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力（基礎・基本の定着）が身につくための工夫をしていたか？ 一斉学習やグループ学習の中でどうだったか？ 個別指導を通してどうだったか？ ICT機器を効果的に活用していたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く態度、発表態度、板書はとりやすかったか？
進捗	<p>文章のしかりと把握している生徒はよく考えていたが、文章を読んでいる生徒は...</p>	<p>生徒は教師側の指示に従い、一生懸命に取り組んでいた。</p> <p>グループ活動の司会者は決まっていたが、決まっていれば必ずしも...</p>	<p>△漢字テストは、なぜ解答しなかったか？</p> <p>□ ICT機器を利用すれば、発問も解答も簡単に...</p> <p>□ 口答発問も、フロント配布。</p>	<p>生徒のグループでの意見をまとめたものを、黒板に掲示してもよかったかもしれない。</p>
月	<p>感想を発表している生徒の感想はとらえづらかったか？</p>	<p>○成果</p> <p>△板書を使って、内容を考えるべきところが提示するとわかりやすい。</p> <p>△グループ活動中における役割分担を明確にしていくとスムーズに進められる。</p>	<p>書く、聞く、話すをベースに生徒は一生懸命に活動していた。</p>	<p>グループ活動中でのグループにおいてよく発言し、まとめスピードが速い所と遅いグループがあった。速く終わったグループが黒板に板書すればよいのでは？</p>
開	<p>△学習目標が不明確。1時の初めの感想と関連が感じられなかった。</p>	<p>□改善策</p>	<p>△課題</p> <p>△提示した言葉が暗くて見づらかった。</p> <p>□改善策</p>	<p>グループ毎の発表の後、まとめて画用紙をその黒板に掲示して、再度進めようとする時間を与えてあげればよいのでは？</p> <p>□改善策</p>
終末	<p>○成果</p> <p>△課題</p> <p>□改善策</p>	<p>○成果</p> <p>△課題</p> <p>□改善策</p>	<p>○成果</p> <p>△課題</p> <p>□改善策</p>	<p>○成果</p> <p>△課題</p> <p>□改善策</p>
協議事項			<p>登場人物の役割を予め、その役割ごとに音読させてやる。</p>	